

## 敬老会！『すももたろう』で大笑い♪



■すももたろうは誰？！

コロナ退治のお供になるイヌとニワトリに渡すのは、きびだんごではなく消毒液！ご利用者みなさんにも参加していただき、終始笑いの絶えない敬老会となりました。

「劇、上手やったわー！」「(マスクで)誰か全然わからへんかったけど、おもしろかったわー！」昨今、コロナウィルスの影響で思うように行事が出来ない中、1フロア15分程度ではありましたが、劇中かけ声をいただくなど、笑顔をたくさん拝見することができました。スタッフも一緒に大笑いの楽しいひとときを過ごしました。

コロナ禍に生まれた当苑オリジナル寸劇『すももたろう』。鬼退治ならぬ、コロナ退治に出かけます。途中、イヌとニワトリに会い、はて…その行方やいかに！

各フロア、感染対策を万全にして集まっていたいただき行った「敬老会」。メインはスタッフがそれぞれの役に扮した、寸劇『すももたろう』。マスクにそれぞれ特徴のある鼻と口を描き、これがいい演出になりました。途中、おじいさんとおばあさんによる「二人は若い」を歌い、みなさんで合唱。



■きびだんごの代わりに消毒液！みなさんにシュッ！とひと吹きしてまわります。



## 今年もひっそりと納涼祭！

昨年につき、規模を縮小し8月に開催された『納涼祭』。それでも、お祭りの雰囲気と気持ちは例年と同様に♪

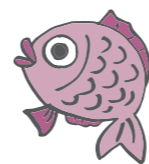
■モニターで吹奏楽の演奏を鑑賞

今年も、縮小ながらもご利用者に楽しんでいただきたいと、みんなでハッピーや浴衣を着用。館内にはお祭り音楽が流れ飾り付けも。たこ焼きや焼きそばで雰囲気味わい、また、テレビモニターで都祁中学校吹奏楽部による演奏も楽しみました。

「いつもの賑わいと比べると物足りないが楽しかった」と利用者さん。一時は開催しない方向でしたが、ご利用者みなさんに喜んでいただいて、開催してよかったー！とスタッフもより笑顔が溢れた一日でした。



## 祝100歳！中西千代乃さん



8月25日、中西千代乃さんが100歳のお誕生日を迎えられ、スタッフ一同心を込めてお祝いさせていただきました。

百寿の御膳はお赤飯、ケーキ、鯛。千代乃さん「鯛の目食べる！」と仰りスタッフもびっくり！それまで少し低下気味だった食欲もお誕生日を機に回復傾向にあり、ますますお元気になられています。果物が大好きという千代乃さん。周りの利用者さんへよく気遣いされ、またご自分の身体への気遣いも怠りません。だからこそ、このコロナ禍、こうして100歳のお祝いをさせていただけることが、スタッフにとっても本当に有難いことだと改めて実感しています。千代乃さん、おめでとうございます。



■愛情込めて…特大の鯛と管理栄養士手作りケーキ

## マッスルでハッスル~!



介助時、スタッフの腰への負担軽減のために導入された『マッスルスーツ』。空気圧を利用した人工筋肉で、使う人に合わせて調整ができるという代物。装着もリュックサックのように背負ってベルトを締めるだけなので簡単です。ベッドから車椅子への移乗時など、力のないスタッフも楽に介助できるので活躍が大きく期待されます。ただ、軽量であり力を必要とするそのときは楽ではあるものの、継続的な業務には向いていないため、いろいろと試しながら使用しているのが現状です。今後マッスルでハッスルしているスタッフを乞うご期待！

## STAFF~♪

都祁すずらん苑自慢のスタッフをご紹介します♪ 人の話をよく聞き、適切なアドバイスをされる井岡さん。スタッフから絶大な信頼を得ており、当苑には無くしてはならない存在です。



都祁すずらん苑が1996年12月に開設して、1年と少し経った頃から勤務されている井岡さん。今年で23年目という超ベテラン！以前は、大阪の障がい者施設で15年以上相談員として勤務されていました。大阪での生活に徐々に疑問を抱いていたこと、また奥様の実家が近くにあったこともあり引越を決意。当時の苑長に声をかけられ、特養の相談員として勤務をスタートすることになりました。

井岡さん「誠実に取り組んで信頼してもらうことを心がけています。特養にいた頃は、客観的に

現場をみて、修正しなければならないところは修正する。時にはスタッフにも厳しいことを言ったりもしました。自分がちゃんとしなければいけないと常に思っています。」

現在は、苑内の居宅介護支援事業所の管理者として、相談に来られた方が、介護制度の中でよりよいサービスを利用していただけられるように寄り添われています。

本誌創刊号 STAFF コーナーでご紹介した椋木さんも、井岡さんの情熱に心動かされたうちの一人。優しいまなざしと口調に皆が安心するのでしょうか。